

臨床実習

責任者名：本吉 満(歯科矯正学 教授)

学期：通期

対象学年：5年

授業形式等：実習

◆担当教員

本吉 満(歯科矯正学 教授)

清水 治(口腔外科学Ⅱ 准教授)

岡田 明子(口腔内科学 教授)

馬谷原 琴枝(歯科矯正学 准教授)

小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 教授)

高山 忠裕(歯科保存学Ⅲ 准教授)

◆一般目標 (GIO)

卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養するために、臨床を通して基本的な診察や技能を身につける。

◆到達目標 (SBO s)

1. 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。
2. 診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。
3. 主観的所見、客観的所見、評価、計画<SOAP>による診療録及び指示書を作成できる。
4. 患者の訴え、また指導医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。
5. 医療安全対策（標準予防策、感染予防、医療機器の操作等を含む）を実践できる。
6. 一次救命処置<BLS>を実施できる。
7. 薬剤耐性<AMR>に配慮した適切な抗菌薬の処方ができる。
8. 医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。
9. 全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。
10. 診断並びに治療に必要な画像検査及び臨床検査を選択し、実施できる。
11. 局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。
12. 永久歯の単純抜歯を実施できる。
13. 軟組織の小手術を実施できる。
14. う蝕その他の歯の硬組織疾患（象牙質知覚過敏症を含む）の保存修復治療ができる。
15. 歯髄・根尖性歯周疾患の治療ができる。
16. 歯周基本治療ができる。
17. 歯質の欠損に対する歯冠補綴治療ができる。
18. 歯の欠損に対する補綴治療ができる。
19. 口腔衛生指導を実施できる。
20. 歯科疾患を予防するための処置ができる。
21. 小児に対する歯科予防処置を実施できる。
22. 模型及び頭部エックス線規格写真等を分析、診断し、歯科矯正治療の計画を立案できる。
23. 摂食嚥下障害者および要介護高齢者の治療に必要な基本事項が説明できる。
24. 摂食嚥下障害および要介護高齢者に対する評価法が説明できる。

25. 摂食機能療法の目的と各アプローチ法の意義が説明できる。
26. 地域医療・地域保健（在宅医療（訪問歯科診療を含む）、地域包括ケアシステム）を経験する。
27. 病診連携、病病連携を経験する。
28. 多職種連携（歯科衛生士、歯科技工士、医師、薬剤師、看護師、その他の関連職種並びに介護職）によるチーム医療を経験する。
29. 根拠に基づいた医療<EBM>、Narrative-based Medicine <NBM>に基づいた患者中心の医療を実践する。
30. インフォームド・コンセントを得ることができる。

◆評価方法

第1～5教育診療科の成績と POS 実習の成績（6分野：各100点満点）を合算してその平均を成績評価点とし、課題、試験、口頭試問等でフィードバックする。ただし、成績評価点を得るためには、以下の2つの要件を満たす必要がある。

- ① 6分野の評価をそれぞれ個別に判定し、全てが60点以上であること。
- ② 臨床能力試験（臨床実地試験）に合格すること。
- ③ 臨床能力試験（一斉技能試験）に合格すること。

欠席については、上記成績評価点より欠席状況によって減点する（遅刻および早退は、欠席の50%とする）。

各教育診療科の成績評価方法については、臨床実習学習要項に記載のとおりとする。

◆授業の方法

第5学年をグループ分けし、各項目を日程表に従ってローテーションしながら実習を行う。

詳細については要項を参照のこと。

【実務経験】全担当教員

全担当教員は歯科医師として日本大学歯学部附属歯科病院で臨床を実践しており、豊富な臨床経験を持っている。第4学年までに修得した基礎的臨床歯科医学を基盤とし、現在の歯科医療に求められている歯科医学的知識および手技について患者の治療を通して学ぶ場を、担当教員の実際の臨床経験を活かしながら提供する。

◆アクティブ・ラーニング

実習

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	第5学年 臨床実習学習要項	臨床実習要項編纂ワーキンググループ編	日本大学歯学部	

◆DP・CP

[DP-3]

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP-4]

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[DP-7]

コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

[CP3]幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP4]歯科医学の基礎知識を体系的に習得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[CP7]歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

実習前に実習要項で各診療科の学修内容を理解しておくこと。

詳細については要項を参照のこと。

◆準備学習時間

詳細については要項を参照のこと。

◆全学年を通しての関連教科

第1教育診療科：歯科麻酔学各論（4年前期）、臨床実習アドバンスト（6年前期）

第2教育診療科：診査・診断学実習（4年後期）、歯科放射線学（4年前期）、臨床推論の構築（5年後期）、POS型医療の構築（5年前期）、口腔診断学・有病者歯科学（4年後期）、口腔顔面痛学（6年前期）

第3教育診療科：発生学（2年後期）、発生学実習（2年後期）、保存修復学Ⅱ（3年後期）、小児の歯科診療の基礎（3年後期）、歯科矯正学（4年前期）、矯正・小児歯科学演習（4年前期）、診査・診断学実習（4年後期）、矯正・小児歯科学実習（4年後期）、顎機能治療学（4年後期）

第4教育診療科：歯冠補綴学、歯冠補綴学実習、咬合学概論（3年後期）、総義歯補綴学Ⅰ、部分床義歯補綴学Ⅰ、部分床義歯補綴学実習Ⅰ、架橋義歯補綴学、架橋義歯補綴学実習、顎機能治療学（4年前期）、総義歯補綴学Ⅱ、総義歯補綴学実習、部分床義歯補綴学Ⅱ、部分床義歯補綴学実習Ⅱ、固定性義歯補綴学、顎機能分析学、顎機能分析演習（4年後期）

保存科：保存修復学Ⅰ（3年前期）、保存修復学実習Ⅰ（3年前期）、ベーシックカリオロジー（3年前期）、保存修復学Ⅱ（3年後期）、保存修復学実習Ⅱ（3年後期）、クリニカルカリオロジー（3年前期）、歯内療法学（4年前期）、歯周病学（4年前期）、歯内療法学・歯周病学実習Ⅰ（4年前期）、歯内療法学実習Ⅱ（4年後期）、歯周病学実習（4年後期）、アドバンスト歯内療法学・歯周病学（4年後期）

◆予定表

学生は3グループ（1，2，3）に編成され、グループごとに5つの教育診療科をローテーション日程にしたがって学んでいく。

ローテーション日程の詳細は要項の日程表を事前に参照し、必ず各自で確認しておく。

詳細については、学習要項参照のこと。

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
	第1教育診療		1	[ローテーション実習] 1. 口腔外科診療	・安全と清潔に配慮した適切な診療介助ができる。 ・患者と良好な医療コミュニケーション		A-5-1) 患者中心のチーム医療

科(口腔外科)		<p>器具の取り扱いの学修</p> <p>2. 清潔不潔区分の学修</p> <p>3. 外来診療見学および介助</p> <p>[必修症例実習] (プロトコール記載)</p> <p>1. 必修症例(計4例)</p> <p>1) 抜歯術 2例</p> <p>2) 小手術 2例</p> <p>[自験]</p> <p>1. 抜歯術</p> <p>1) 術前診査</p> <p>2) 検査指示書の作成</p> <p>3) 術前説明</p> <p>4) 浸潤麻酔</p> <p>5) 抜歯術</p> <p>6) 口腔内縫合処置</p> <p>7) 術後説明</p> <p>8) 処方箋の作成</p> <p>9) 術後処置(創部洗浄・糸等)</p> <p>10) 医療情報提供書の作成</p> <p>[課題研究]</p> <p>① 歯性感染症による顎骨周囲炎の診断および治療</p> <p>② 抜歯・根尖切除術の適応症、禁忌症、偶発症および注意すべき全身状態</p> <p>③ 顎顔面骨折の診断と治療</p> <p>④ 口唇口蓋裂の分類と治療</p> <p>⑤ 顎変形症の診断と治療</p>	<p>オンがとれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療チームの一員として、良好な医療コミュニケーションがとれる。 ・埋伏抜歯，口腔外科小手術の処置法が説明できる。 ・口腔外科小手術の準備と片付けが安全に実施できる。 ・抜歯術2例，小手術2例のプロトコールが作成できる。 ・口腔外科疾患の診断法と治療法を説明できる。 ・口腔外科手術の基本的な理論を理解できる。 ・口腔外科受診患者の術前検査(問診，視診，触診，血圧測定等)が適切にできる。 ・検査指示書を作成できる。 ・口腔外科小手術(抜歯，外来小手術)のリスクを患者に説明できる。 ・口腔内で安全に浸潤麻酔が実施できる。 ・永久歯で簡単な場合の抜歯術が安全に実施できる。 ・口腔内の縫合が安全に実施できる。 ・口腔外科小手術後(抜歯，外来小手術)の注意事項を患者に説明できる。 ・院外処方箋が適切に作成できる。 ・口腔外科小手術後(抜糸，洗浄)の処置が安全に実施できる。 ・他医療機関あての紹介状・照会状が作成できる。 ・歯性感染による顎骨周囲炎の診断と治療について説明できる。 ・抜歯，根尖切除術の適応，禁忌および偶発症について説明できる。 ・顎顔面骨折の診断と治療について説明できる。 ・口唇口蓋裂の分類と治療について説明できる。 ・顎変形症の診断と治療について説明できる。 	<p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
---------	--	---	---	---

			<p>⑥唾液腺疾患・唾液腺腫瘍の診断と治療</p> <p>⑦顎口腔領域の神経麻痺・神経痛の診断と治療</p> <p>⑧口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群および自己免疫疾患</p> <p>⑨顎骨に発生する嚢胞・良性腫瘍の診断と治療</p> <p>⑩軟組織に発生する嚢胞・良性腫瘍の診断と治療</p> <p>⑪顎顔面領域の悪性腫瘍（潜在的悪性疾患を含む）の診断と治療</p> <p>⑫顎口腔領域に症状を示す血液疾患</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白板症と扁平苔癬の診断と治療について説明できる。 ・唾液腺疾患の診断と治療について説明できる。 ・顎口腔領域の神経麻痺の診断と治療について説明できる。 ・顎骨に発生する嚢胞と腫瘍の診断と治療について説明できる。 ・軟組織に発生する嚢胞と腫瘍の診断と治療について説明できる。 ・顎顔面領域の悪性腫瘍の診断と治療について説明できる。 ・歯科および口腔外科領域で使用する薬剤について説明できる。 ・顎顔面領域の神経痛の特徴を理解し診断と治療について説明できる。 ・口腔領域に症状を呈する血液疾患について説明できる。 ・口腔外科手術に関連する全身疾患について説明できる。 	
第1教育診療科(歯科麻酔科)	1	<p>歯科麻酔科</p> <p>[見学・介助症例実習]</p> <p>1. 全身麻酔（1症例）</p> <p>2. 精神鎮静（2症例）</p> <p>[試験]</p> <p>1. 全身麻酔法</p> <p>2. 精神鎮静法</p> <p>[自験]</p> <p>1. 心電図の装着と記録、マスクによる人工呼吸（1症例）</p> <p>2. 医療面接、バイタルサインの測定と記録（2症例）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロトコール記載が適切に行える。 ・全身麻酔法に用いる薬剤ならびに器材について説明できる。 ・精神鎮静法に用いる薬剤ならびにモニタリングについて説明できる。 ・心電図の装着と記録および人工呼吸が適切に行える。 ・医療面接、バイタルサインの測定および記録が適切に行える。 ・高血圧症患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・虚血性心疾患患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・脳血管障害患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・心房細動患者の歯科治療時の注意 	<p>A-4-1) コミュニケーション</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>	

			<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 題以上実施する 1) 高血圧症 2) 虚血性心疾患 3) 脳血管障害 4) 心房細動 5) 心室性期外収縮 6) 糖尿病 7) うつ病 8) 気管支喘息 9) 妊婦 10) 血管迷走神経反射 11) 過換気症候群 12) 局所麻酔薬中毒 13) アナフィラキシーショック 14) 血管収縮役による反応 15) 異物による上気道閉塞 16) 一次救命処置 17) 二次救命処置 	<p>点が説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心室性期外収縮患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・ 糖尿病患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・ うつ病患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・ 気管支喘息患者の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・ 妊婦の歯科治療時の注意点が説明できる。 ・ 血管迷走神経反射について説明できる。 ・ 局所麻酔薬中毒について説明できる。 ・ アナフィラキシーショックについて説明できる。 ・ 血管収縮薬による反応について説明できる。 ・ 異物による上気道閉塞について説明できる。 ・ 一次救命処置について説明できる。 ・ 二次救命処置について説明できる。 	
第 2 教育診療科 (口腔診断科)	1	<p>[見学実習]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接と口腔外口腔内の診査 2. SOAP の記述 <p>[自験]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接と口腔外・口腔内の診査 	<p>[見学課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育診療医の初診患者に対する医療面接を見学することで、患者対応を理解する。 ・ 口腔外・内の診査のために必要な準備を整えることができる。 ・ 的確な口腔外診査の手順を理解し、 	<p>E-1-1) 診察の基本</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p>	

			<p>[課題実習]</p> <p>1. POMR の作成 [チュートリアル 学習] 実施なし</p>	<p>診療録に記載ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的確な口腔内診査と所見の記録ができる。 ・POMR における総括のしかたを理解する。 <p>[自験課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接を通じて、患者との良好な関係を築くことができる。 ・主訴、現病歴を聴取することで、疾患の推測ができる。 ・既往歴を聴取することで、患者の全身疾患を理解できる。 ・家族歴、生活歴を聴取することで患者の生活環境を理解できる。 ・口腔外の診査を行い、口腔外病変について理解できる。また、口腔内の環境に及ぼす影響について推察できる。 ・口腔内の診査を行い、患歯の確定と病名の推測ができる。 ・初期治療計画の立案ができる。 ・POMR の構成を述べることができる。 ・POMR に基づき SOAP の記述ができる。 ・POS 症例の総括ができる。 		<p>G-4 チーム医療・地域医療 G-5 患者中心の医療</p>
第2 教育 診療 科 (歯 科放 射線 科)		1	<p>[課題実習]</p> <p>1. 口内法エックス線 撮影法およびパノ ラマ エックス線撮影法 2. 口外法エック ス線 撮影法および特殊 撮影法の原理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口内法エックス線およびパノラマエックス線撮影を行うことで、それぞれの写真の画像形成を理解し、画像診断ができる。 ・口外法エックス線撮影法、特殊撮影法の画像形成の原理を理解できる。 ・特殊撮影見学、CT 撮影、顎関節撮影 		<p>E-1-1) 診察の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 G-1-2) 医療安全・感染対策 G-2 基本的診察法</p>

			<p>3. 画像解剖学の学習</p> <p>4. 特殊撮影法 ・各種撮影法の2症例 以上を見学(必修)</p> <p>5. 顎顔面領域の画像の読像と鑑別診断 [テュートリアル学習] [スキルチェック]</p> <p>[自験] ・POS症例の撮影 ・POS症例の読像と画像診断</p>	<p>および造影撮影, 頭部エックス線単純撮影などの撮影法を理解できる。</p> <p>・歯の異常, 歯周組織疾患, 嚢胞, 腫瘍のエックス線像を読像し, 診断できる。</p> <p>・副鼻腔, 顎関節の解剖学的構造を理解し, エックス線像を読像し, 診断できる。</p> <p>・口外法エックス線撮影および特殊撮影法の見学を行い, 撮影法原理と画像形成を理解する。</p> <p>・放射線の歯科医学への利用に必要な知識と技能が理解できる。</p> <p>・腫瘍, 嚢胞および炎症のエックス線写像を読像し, 鑑別診断ができる。</p> <p>・読像, 鑑別診断・画像診断ができる。</p> <p>・口内法およびパノラマエックス線撮影と読像が適切にできる。</p>	<p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
第2教育診療科		1	<p>[実習前講義] ・地域包括ケアにおける歯科医療の在り方について [見学実習] ・歯科診療所(施設)における見学実習 ・見学レポート(ポートフォリオ)の作成</p>	<p>・地域包括ケアの概要を説明できる。</p> <p>・医療・病診連携の仕組みを説明できる。</p> <p>・訪問診療の意義を説明できる。</p> <p>・医療における法令遵守の重要性について説明できる。</p>	<p>B-2-1) 歯科医師法・歯科医療関係法規</p> <p>B-2-2) 保健・医療・福祉・介護制度</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
第3教育診療科(歯科矯正科)		1	<p>[テュートリアル学習] <テーマ1> ・成長発育 <テーマ2> ・咬合</p>	<p>成長発育の知識を修得し治療方針の立案を理解する。</p> <p>正常咬合と不正咬合についての知識を理解する。</p> <p>頭部エックス線規格写真の分析法を理解し, 不正咬合の評価を理解す</p>	<p>F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p>

			<p><テーマ3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭部エックス線規格写真の分析 <p><テーマ4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・模型分析 <p><テーマ5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tweed分析 <p>[見学・介助症例実習]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)矯正治療の実際 2)矯正装置の作用機序 3)矯正用材料と器具の取り扱い <p>[自験]</p> <p>診断と治療計画の立案, 口腔清掃, 口腔衛生指導</p>	<p>る。</p> <p>口腔模型の分析法を理解し, 不正咬合の評価を理解する。</p> <p>側貌頭部エックス線規格写真と口腔模型より抜歯, 非抜歯の判定法を理解する。</p> <p>矯正治療の時期および方法, 現在の進行状況を説明できる。</p> <p>矯正治療の作用機序を説明できる。</p> <p>矯正用材料と器具の取り扱いについて説明できる。</p> <p>模型・顎態分析, 口腔顎顔面の診察を行い, 使用する矯正装置について説明できる。</p> <p>良好な医療コミュニケーションの方法を理解する。</p> <p>口腔清掃を実施できる。</p>	<p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
第3教育診療科(小児歯科)	1	<p>[テュートリアル学習]</p> <p><テーマ1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児のう蝕治療および歯内療法 <p><テーマ2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児の口腔外科療法 <p><テーマ3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・咬合誘導法 <p><テーマ4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児(者)の歯科診療 <p><テーマ5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔疾患の総合的診断と治療計画の立案 <p>[見学・介助症例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児患者の対応を説明できる。 ・乳歯, 幼若永久歯のう蝕診断や治療のポイントを説明できる。 ・口腔疾患の診断や外科療法のポイントを説明できる。 ・乳歯列, 混合歯列期における咬合誘導の意義と種類を説明できる。 ・障害児(者)の行動管理、歯科治療での注意点、特殊性を説明できる。 ・小児期における口腔疾患の治療計画の立案の基本的な考え方を説明できる。 ・小児に見られる口腔疾患の予防法(ブラッシング指導, フッ化物歯面塗布およびシーラント処置)について説明できる。 ・乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴・ 	<p>E-4-2) 小児の歯科治療</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>	

			<p>実習]</p> <p>1) 予防処置 (1 例)</p> <p>2) 歯冠修復 (2 例)</p> <p>3) 歯内療法 (1 例)</p> <p>4) 外科処置 (1 例)</p> <p>5) 咬合誘導処置 (1 例)</p> <p>[自験]</p> <p>1) フッ化物歯面塗布</p> <p>2) 予防填塞</p> <p>3) 保護者へのブラッシング指導</p>	<p>予防法を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健診時の診察と検査について説明できる。 ・ 小児の歯周疾患の特徴と対応を説明できる。 ・ 障害児 (者) の口腔ケア及び口腔衛生指導を説明できる。 ・ 乳歯と幼若永久歯のう蝕の診査・診断を説明できる。 ・ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的・種類、適応症、手順及び留意点を説明できる。 ・ 小児の重症齲蝕の治療について説明できる。 ・ 乳歯と幼若永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診査、診断、処置法、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる。 ・ 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、外科処置の検査、診断、処置法及び予後を説明できる。 ・ 小児の虐待の特徴と対応を説明できる。 ・ 咬合誘導の概念を説明できる。 ・ 咬合発育段階における各咬合誘導処置 (受動・能動的咬合誘導) の目的、種類、適応症及び留意点と術式、予後について説明できる。 ・ 保隙装置の設計・作製について説明できる。 ・ 口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響について説明できる。 ・ フッ化物歯面塗布, 予防填塞, 保護者へのブラッシング指導を実施できる。 		
第 3		1	[テュートリアル学	・ 摂食機能障害の病態について説明		B-2-2) 保

<p>教育 診療 科(摂 食機 能療 法科)</p>		<p>習]</p> <p><テーマ1></p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害および高齢者患者の歯科治療と移乗介助方法 <p><テーマ2></p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害および要介護高齢者に対する口腔ケア <p><テーマ3></p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害患者に対する診査, 診断 <p><テーマ4></p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害患者に対する訓練と対応法 <p><テーマ5></p> <ul style="list-style-type: none"> 治療計画の立案 <p>[見学・介助症例実習]</p> <p>1)摂食嚥下障害症例, 高齢者歯科症例の外来診療</p> <p>2)摂食嚥下障害症例, 高齢者歯科症例の医科病院への訪問診療</p> <p>3)摂食嚥下障害症例, 高齢者歯科症例の在宅・施設への訪問診療</p> <p>[自験]</p> <p>診断と治療計画の立案, 摂食機能訓練指導, 口腔衛生指導</p>	<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食機能障害を起こす基礎疾患(脳卒中, 認知症, パーキンソン病等)について説明できる。 要介護高齢者の特徴について説明できる。 摂食嚥下障害者および高齢者の診療時の注意点について説ける。 車椅子と診療台への移乗介助方法について説明, 実施できる。 口腔ケアの必要性について説明できる。 口腔ケア時の注意事項について説明できる。 口腔ケアに必要な器具について説明できる。 問診・視診・触診・聴診から得られる情報について理解する。 スクリーニングテストの手技と評価法について説明できる。 嚥下内視鏡検査の特徴と利点・欠点について説明できる。 嚥下造影検査の特徴と利点・欠点について説明できる。 口腔機能低下症の診断方法について説明できる。 ADL, 認知機能, 栄養状態の評価法について説明できる。 摂食嚥下リハビリテーションにおける4つのアプローチ方法について説明できる。 代表的な間接訓練法の手技と効果について説明できる。 直接訓練の効果と注意事項について説明できる。 直接訓練で用いられる代償的アプローチについて説明できる。 環境改善的アプローチと心理的アプローチを説明できる。 	<p>健・医療・福祉・介護の制度</p> <p>E-5-1) 高齢者の歯科治療</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
--	--	--	--	--

第4 教育 診療 科	1	<p><第1～3期></p> <p>1. 前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い実習 ・器具、材料の取り扱い <p>2. 見学実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補綴治療の見学 ・医療コミュニケーション <p><第4～6期></p> <p>1. 見学・介助実習</p> <p>2. シミュレーション実習</p> <p><第7～15期></p> <p>1. 見学・介助および実地</p> <p>2. 課題実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概形印象採得と研究用模型の製作（相互実習） ・研究用模型の咬合器装着と顎路調節（相互実習） <p><自宅学修></p> <p>1. 学修シート作成</p> <p>2. 課題学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的歯科治療に必要な衛生的手洗いとグローブ装着を修得する。 ・補綴治療に必要な器具や材料の取り扱いについて修得する。 ・補綴診療を見学・介助することで、一般的な補綴治療の基本を理解する。 ・医療コミュニケーションのとり方、医療チームの一員としての態度を学ぶ。 ・アルジネート印象材による印象採得および研究用模型作製の基本的態度、および技能を修得する。 ・フェイスボウ採得とチェックバイト採得し、研究用模型を咬合器に装着して顎路を調節する意義、技能および知識を修得する。 ・補綴3科の教育診療医の患者治療において、適切な見学・介助、実地ならびに技工物の製作ができる。 ・補綴治療を受ける POS 患者担当となり、自験ならびに診療介助を実施できる。 ・SOAP 形式で診療記録を記載できる。 ・総義歯症例の術前の医療面接から装着後管理まで、継続して自験ならびに診療介助が行える。 ・部分床義歯症例の術前の医療面接から装着後管理まで、継続して自験ならびに診療介助が行える。 ・クラウン・ブリッジ症例の術前の医療面接から装着後管理まで、継続して自験ならびに診療介助が行える。 ・補綴治療に必要な基本事項を理解し、各科プロトコルを記載できる。 ・各科のプロトコルの内容および関係する基本事項について説明することができる。 		<p>F-3-4) 歯質と歯の欠損の治療</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-2 基本的診察法</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
第5	1	* 詳細は要項を確認	・標準予防策（スタンダードプレコ		F-3-3) 歯と

教育診療科		<p>認すること。</p> <p>【ローテーション実習①～④期：見学・介助・自験への準備教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策（「臨床実習におけるコロナウイルス感染症対策について」に準じて実施すること） ・器具，器材の準備および取り扱い 2. 見学実習（見学した内容に関するレポート課題） <ul style="list-style-type: none"> ・保存修復科：光重合型コンポジットレジン修復 ・歯内療法科：抜髄・感染根管処置 ・歯周病科：スケーリング・ルートプレーニング，歯周外科治療（⑩期まで） 3. 課題実習（相互実習，シミュレーション実習） 4. 接続教育（①～③期） <p>【ローテーション実習⑤～⑯期：見学・介助および自験】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・介助実習 2. シミュレーション実習 3. 必修症例・試験症例の実施 	<p>ーション）を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存治療において必要とされる器具，器材の準備および取り扱いを学ぶ。 ・教育診療医の患者治療の見学・介助実習を行うことで保存治療の流れを理解する。 ・医療チームの一員としての実務と態度を学ぶ。 ・光重合型コンポジットレジン修復の基本的技能を学ぶ。 ・ラバーダム防湿法の目的および基本的手技を学ぶ。 ・ブラッシング指導の目的および基本的手技を学ぶ。 ・各処置について規定数以上の見学・介助を行うことで，保存治療の流れを理解し，自験に必要な知識を学ぶ。 ・光重合型コンポジットレジン修復が実施できる。 ・抜髄・感染根管処置が実施できる。 ・ブラッシング指導，治療計画の立案およびスケーリング・ルートプレーニングが実施できる。 ・光重合型コンポジットレジン修復が適切に実施できる。 ・抜髄・感染根管処置が適切に実施できる。 ・ブラッシング指導，スケーリング・ルートプレーニングが適切に実施できる。 ・保存治療に必要な前処置ができる。 ・硬組織疾患，歯髓疾患および歯周疾患に対する診査が実施できる。 ・POS あるいはローテーション実習の担当患者に対して保存治療が行える。 ・患者に術後の治療内容の説明が実施できる。 ・上記の内容を実施することで処置 	<p>歯周組織の疾患の治療</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-2 基本的診察法</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>
-------	--	--	---	---

			<p>1) 保存修復科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光重合型コンポジットレジン修復 <p>2) 歯内療法科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜髄 ・感染根管処置 <p>3) 歯周病科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラッシング指導 ・スケーリング・ルートプレーニング <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各科プロトコール作成, 口頭試問 2. CPX および CSX への対策および受験 	<p>に必要な知識と技能を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ POS 患者の治療計画を立案し, 一連の治療の中で, 保存治療を実施できる。 ・ POS 実習チャート (学生用診療録) を記載できる。 ・ 保存治療に必要な基本事項を理解し各科プロトコールを記載できる。 ・ 保存治療に必要な知識および技能に関する内容が説明できる。 ・ 保存治療に必要な知識を理解する。 ・ 保存治療に必要な技能を学ぶ。 		
--	--	--	--	---	--	--

